

大山たび

今巻
池井野・編
之五

わたしの街のとおき文化遺産

水面^{みなも}、きらめき朝焼けに揺らぐ。
この地の肥沃^{ひよく}なる土と水が
犬山の鮮やかな文化を育んできた。
数万年前からこれからも。
命の始まりの地、今井・池野。

今井・池野の地は現在でも緑が奥深く、犬山市域で繁栄した華やかな文化とは一見隔絶された場所に思えます。しかしこの地で採れる良質の粘土は、犬山の伝統ある焼き物文化を生み、山々から掘り出された鉱物は中世羽黒地区における鑄造業の繁栄を支える資源となりました。また、広大なため池から流れ出た水は、今でも尾北地域の田畑を潤す人々の命の源となっています。

今井・池野の地で見つかるはるか数万年前、旧石器時代の人々が残した石の道具たち。それらをそっと手に取ると、私たちは自然の中で生まれ、これからも共に生きていくという実感が、ほのかな暖かみとなって、手のひらにじんわり伝わってくるのです。



犬山たび

今井・池野編
もくじ

三年間にわたって犬山市で行った「悉皆調査」。その調査の中で見つけた魅力いっぱい文化遺産を、犬山七つの地区別に紹介します。『犬山たび』を持って、モモ次郎たちと楽しいたびに出かけましょう！



今井・池野
ココ・特選

入鹿池



六

八曾の滝



八

入鹿池周辺の
古墳たち



十

今井焼



十二

尾張三山



十三

たびの案内人

犬山モモ次郎



久々キギス丸



モモ次郎と仲良しの雉。二胡のようなきれいな声で鳴く。ももとの出身は栗栖の雉ヶ棚。その昔、桃太郎と一緒に鬼退治に出かけた勇敢なわんこ。ももとの出身は犬山城下町のはずれ。



今井・池野
& 物語

入鹿切れ
天に昇った
二匹の馬



九



コレ見て
文化遺産

今井石



十四

石作神社



物狂峠



十五

光陽寺



たびの
お役立ち

モモ次郎の
わんわんマップ
キギス丸の
たび文庫



十八

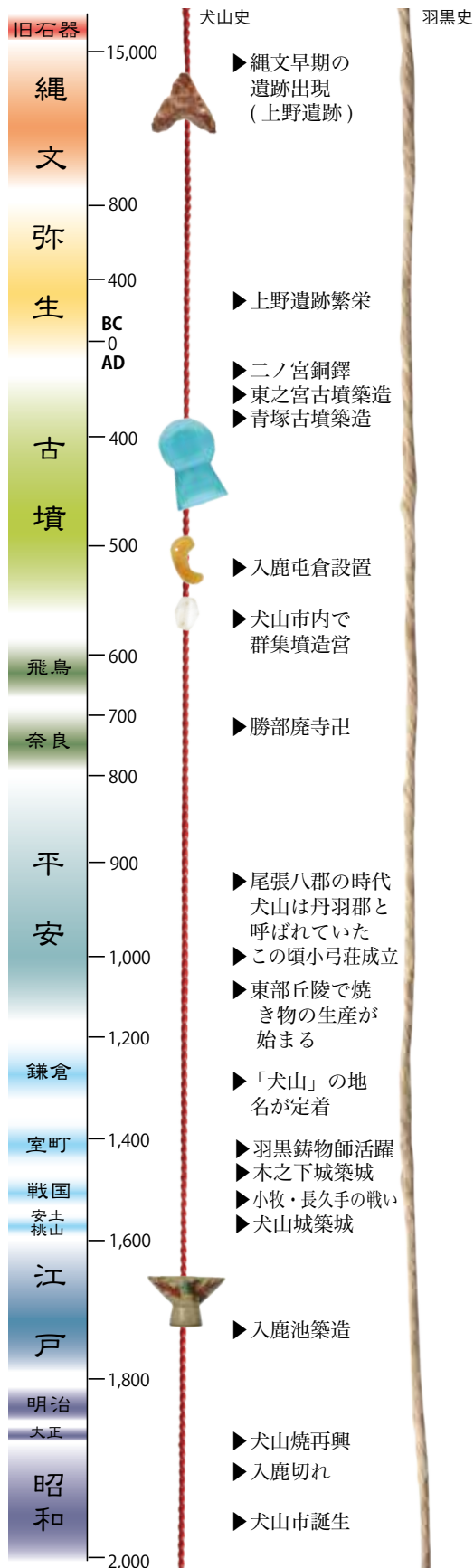


十六

たびの仲間
は……？
十九頁で
紹介済み
カニオニ



年表



旧石器時代

入鹿池周辺に人の気配。

キギス丸の鳥瞰図 MAP

今井・池野地区は犬山の北東部の地区。入鹿池や八曾の山々がある自然が豊かな場所テブ。犬山の中心街からは少し離れた場所にあるトリが、明治村やリトルワールド、尾張三山など、犬山を代表する観光スポットがいっぱいある場所テブ。



535 年

政府の直轄地、「入鹿屯倉」が尾張に設置される (p.6)。

6 世紀中頃

入鹿池周辺に小さな古墳がたくさん造られる (p.6)。

ちょこっと昔話 うすが鳥

昔、入鹿の里の奥にある銚子口の近くに、大変美しい声でなくうぐいすが住んでいました。村で評判になったうぐいすは、京にいる帝に献上されることになりました。帝はうぐいすの声を気に入り、「鶯の 羽風になびく うすが鳥 うの花月のかげのとぼそに」という和歌を作りました。それ以後、このうぐいすは「うすが鳥」と呼ばれるようになり、日本中で評判となったということです。



鎌倉時代頃

八曾山周辺で焼き物が盛んに。

1608-1609

木曽川に御囲堤造られる。

1632-1633

入鹿池築造 (P.6)。

18 世紀後半頃

今井焼開窯 (p.12)。

1868

入鹿池堤防決壊。多くの死者を出す。「入鹿切れ」 (P.7)。



木曽川の風景

入鹿池



湖底に沈む犬山、
いにしえの記憶

カテゴリ：自然・景観
住所：犬山市松下
成立年代：寛永10(1632)年
map：p.17

入鹿池堤



入鹿池 とその歴史

犬山市の南東域に位置する入鹿池は、貯水量約1万5千平方キロメートル、溜池の貯水量としては国内第1位の大きさを誇る人工の溜池です。池の南には「銚子口」と呼ばれる開口部があり、そこから流れ出る水は五条川となって犬山市をはじめとする周辺地域へと流れ出、多くの田畑を潤してきました。



池築造以前の歴史 池底の遺物は語る

入鹿池築造以前、この地はどのような場所であつたのでしょうか。入鹿池の渇水時に、池底から古くは旧石器時代や縄文時代のやじりなどが見つかっており、太古の時代からこの地に人が住んでいたと考えられています。また、奈良時代に書かれた歴史書「日本書紀」に、安閑天皇2(535)年に、政府の直轄地「入



▲入鹿池周辺で見つかったやじり

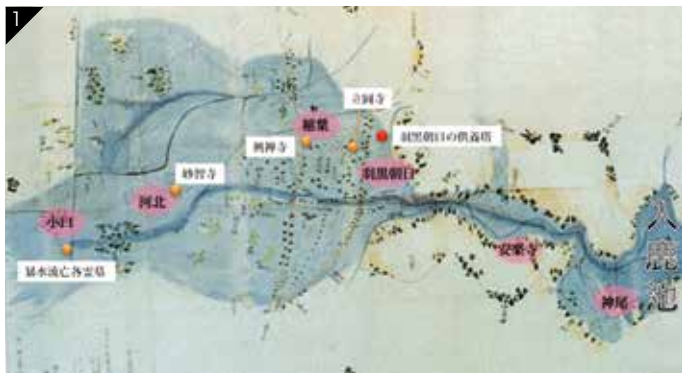
鹿屯倉」をこの地域周辺に設置したと記されていることから、入鹿池周辺の地域が当時、地理的・政治的に重要な場所であつたことが窺われます。



築造の大工事 六人衆の決断

入鹿池が造られたのは江戸時代始め頃のことですが、この頃この地には、「入鹿村」という小さな村があつたようです。入鹿村の村民は池の築造に際し、村ごと移転を余儀なくされました。この際、村内にあつた多くの社寺も別の場所に移築されています。入鹿池の北西、城東の前原地区にある天道宮神明社には、入鹿村から移築した楼門が現在も残されており、当時の入鹿村の面影をひっそりと伝えています(犬山たび 城東編参照)。

入鹿池築造のきっかけとなつたのは、江戸時代の新田開発です。入鹿池築造以前、入鹿池南西部に広がる高台の地域は水の便が非常に悪い場所でした。そこで、この地を農地として開拓するために、後に「入鹿六



1. 羽黒朝日の供養塔位置図
(成瀬家所蔵『入鹿切れの絵図』に加筆)
2. 羽黒朝日の供養塔
3. 昭和34(1959)年
『大山市商工観光展望図』
にみる入鹿池の様子
4. 『入鹿池のポート』
5. 『入鹿名勝御繪はがき』
にみる「入鹿堤の千本桜」



人衆」と呼ばれる周辺の村の有力者達が、銚子の口をせき止め、大きな溜池を造ることを計画しました。この計画はのち尾張藩の事業として実施されることになり、河川を堰き止めるため、長さ約百間（約180メートル）にもなる大規模な「百間堤」を設置する工事が行われました。巨大な堤を設置する工事は困難を極めました。寛永10（1633）年、入鹿池は完成となりました。

しかし、完成から235年後の慶応4（1868）年5月14日、長雨の影響から入鹿池の堤が決壊し、死者941名を出す大災害を引き起こします。決壊によって池から流れ出た大量の濁流は、丹羽郡一帯の多くの村々を飲み込みました。この災害は「入鹿切れ」と呼ばれ、「入



犬山、未曾有の水害
「入鹿切れ」の発生



現在の入鹿池
昭和の観光地化

鹿切れ（11頁参照）などの昔話や、各地に残る慰霊碑などが悲劇の歴史を今に伝えています。

その後池堤防の改修も進んだ昭和初期に入ると、当時の犬山観光ブームの影響で、入鹿池周辺でも観光地化が進められました。池周囲には展望台や貸別荘などが建てられ、多く

の観光客で賑わっていたようです。その一つ料理旅館「富士屋」では昭和5～10年頃、入鹿池の西にある羽黒駅に立ち並ぶ芸者置屋から、きらびやかに装った芸者たちが尾張富士の峠を越えて富士屋へ練りだす光景が見られたそうです。「富士屋」のあった場所には現在、博物館明治村が建てられ、今も毎年多くの観光客が訪れる場所となっています。

滝の曽と八 げん 湿 し っ っ げん



モウセンゴケ
(八曽の湿原)



シラタマホシクサ
(八曽の湿原)

カテゴリ：自然・景観
住所：犬山市八曽付近
成立年代：—
map：p.17



豊かな自然の宝箱
犬山の秘境「八曽」

入鹿池の西部一帯には、「犬山・八曽自然休養林」と呼ばれる緑豊かな丘陵性山地が広がっています。山地内の中央部には東西にかけて五条川の清流が流れ、自然休養林内の最高峰である標高327メートルの黒平山（八曽山）のほか、窟頭洞と呼ばれる洞窟や、貴重な湿地性植物の宝庫である八曽湿原など、多様な自然が存在しています。

このうち黒平山の南西部にあり、五条川の支流にかかる八曽滝は、落差が18メートルある滝で、西日本でも屈指の名水とされています。また、八曽地区でも奥深い山中に位置していることから、昔は修験者たちの修行の場であったとされ「山伏の滝」とも称されていたようです。透き通った滝の水が、苔むした岩肌にしぶきを散らせる光景は清らかにして美しく、八曽地区の代表的なビューポイントといえる場所です。

入鹿切れ

天にのぼった二匹の馬



カテゴリ：おすすめ
住所：犬山市秋下
成立年代：慶応4（1868）年
map：p.16



悲劇の物語 その経緯

慶応4（1868）年。この年4月中ごろから降りはじめた雨は5月になってもやまず、入鹿池は堤防決壊の危機的状況となっていきました。尾張藩は、必死の応急工事により決壊を防ごうとしましたが、5月14日午前、堤防はついに決壊。流れ出た濁流はたちまちにして周辺の村々を飲み込み、その被害は死者941人、負傷者1471人、流失家屋807戸を数えました。これがいわゆる「入鹿切れ」です。この入鹿切れにまつわる話が、「入鹿切れ天にのぼった二匹の馬」のお話です。



守り神 「二匹の馬」の伝説

入鹿池周辺の村では、入鹿池を作った時に堤防である百軒堤が切れるのを防ぐために、左甚五郎という彫刻の名人に「馬の形をした彫物」を入鹿の主として作らせ、池に入れ



昔話、今の地

たと伝わっていました。さてある年、大雨の日が続く、心配した村人が堤防の様子を見に行く、これは不思議。二匹の馬が、池の水を勢いよくのんでいます。これでお助かると思った村人達。しかし、その後も雨は容赦なく降り続き、池の水はどんどん水かさを増していきました。そしてある日、「ゴロゴロ、シューッ」と凄い音がしたと思うと大きな腹をした二匹の馬が、天高く昇っていくのではありませんか。そしてそのとたん「ガガガーッ」入鹿池の堤が切れてしまったのです。

今は悠然と水を湛える入鹿池。しかし、そのような姿となるまでに、犬山地域の人々の長い苦労の歴史があったことを忘れては行けません。

入鹿池周辺の こ ふ ん 古墳たち



池近くに眠る、沢山の小さな古墳たち
知られざるその魅力とは

カテゴリ：遺跡・史跡
住所：犬山市十三塚ほか
成立年代：古墳時代
map：p.17



横穴式石室、その魅力

「天山」「古墳」というと、どうしても東之宮古墳や、青塚古墳のような巨大な、古墳時代前期に造られた前方後方（後円）墳をイメージしてしまいがちですが、実はその他にも古墳がたくさん存在します。ほとんどが古墳時代の後期、6世紀中ごろから7世紀にかけて築造された直径20メートル以内の円墳で、被葬者が眠る場所（埋葬施設）は古墳の側面に入っている横穴式石室です。

まさに「王」と呼ぶに相応しいスケールを誇る東之宮古墳や青塚古墳は、その威容に圧倒され、その場面に相対すると、私たちの魂が揺さぶられる感覚に陥ります。その他の小さな円墳を見たときも、同じような感覚になるか、というと、残念ながらそうではないかもしれません。しかし、例えば、東之宮古墳にある竪穴式石室と違い、横穴式石室を埋葬施設に持つ古墳は、現在でも中に入

れるものがあり、ちょっとした感動を味わえることができるでしょう。当時の人々（今の私たちと近い存在）が埋葬された空間に入り込むことにより、東之宮古墳や青塚古墳とはまた違った感覚。今から千年以上前にこの地で生活したひとたちのナマの感覚を体感できる古墳時代後期の古墳たちをぜひ訪れてみてください。



池辺の古墳

入鹿池が築造される江戸時代以前は、山々に囲まれた小盆地として、旧石器時代から連綿と続く、ひとの息づかいが聴こえる土地でした。古墳時代には、盆地を囲む山々に数多くの古墳が築かれたのです。昭和61（1986）年に刊行された『愛知県遺跡分布地図』（以下『県分布図』）及び昭和47年（1972）に刊行された『犬山市埋蔵文化財調査報告第2集 十三塚3号墳・熊野第1号墳』（以下『報告書分布図』）の記載を見ると、これまで確認されている古墳は全部で13基。比較的集中して立地

する十三塚古墳をはじめ、入鹿池の工事に伴い出土した刀を奉った刀塚、現在の郷中新橋のたもとにひっそりと浮かぶ郷中古墳、「博物館明治村」の敷地内に立地する明治村古墳など…今でも確認できる古墳が数多くあります。



周辺に集中して
立地する十三塚古墳群

入鹿池東部に位置する西山地区には、十三塚古墳群が所在しています。

この古墳群がある場所には、戦前、十三塚の地に別荘を築いた島田第吉が、昭和12年11月に十三塚古墳群の所在する湖畔に「十三塚之碑」を建立しており、現在でも見ることができます。古墳は舌状に延びる丘陵端部に十三塚1・2・4・5号墳の4基、それより約600メートル北の丘陵頂部に3号墳が所在したと『県分布図』『報告書分布図』には記されています。そのうち1号墳は横穴式石

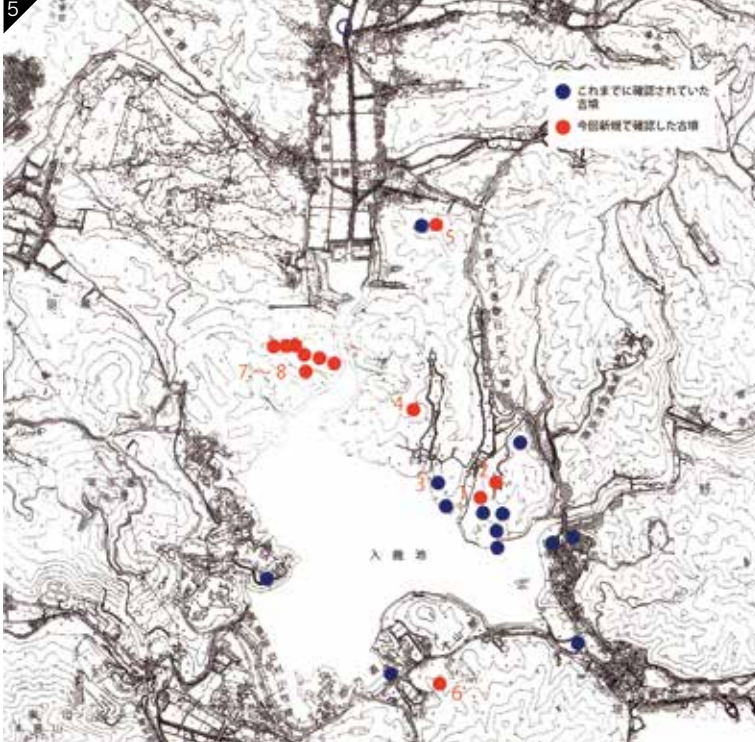
室の一部が残存しており、中に入ることができません。3号墳は発掘調査が実施され、埋葬施設である横穴式石室の状況が確認でき、須恵器・鉄鍬(矢じり)・玉類など出土しました。



新規発見いいね！
古墳・古墳・古墳…

近年、NPO法人ニワ里ねつとの実施調査では、新しく12か所、古墳の可能性がある地点を確認しまし

た。これまで存在が確認されていた古墳を含め、悉皆調査により確認できた新規発見地点が全て本当に古墳ということであれば、入鹿池周辺には25基もの古墳が立地していたことになりました。しかし、この数が絶対とは言えません。誰にも確認されずに滅失してしまった古墳や、誰かに発見されることを待ち、その存在を無言で叫び続けている古墳もまだまだあると思います。今後も調査を続けていくことで、古代における入鹿池周辺は、「ミヤケ」というキーワードとともに、今後ますますその歴史的重要性は高まり、犬山には東之宮古墳や青塚古墳だけじゃない、入鹿池周辺を中心とした円墳たちも「いいね！」と言える日が来るのではないのでしょうか。



1. 刀塚の碑
2. 十三塚之碑
3. 十三塚一号墳の石室
4. 十三塚二号墳
5. 新規発見古墳位置図
6. 新規発見古墳 (図5番号2)

今井焼



カテゴリ：遺跡・史跡
住所：犬山市今井宮ヶ洞
成立年代：宝暦年間 (1751-1764)
map：p.17

幻のやきもの 宮ヶ洞の今井焼

今井焼は、犬山焼の焼かれはじめた時期よりもさらに半世紀ほど前、犬山の今井宮ヶ洞で生産されていた陶製のやきものです。宮ヶ洞窯跡は、過去に公的な発掘調査がおこなわれたことが無く、いまもほぼ手付かずの状態に残されています。今井の地が昔ながらの景観を保ってきたからこそ今日に伝えられる、貴重な文化遺産です。



今井焼の油壺
(岩田洗心館蔵)



実はそっくりさん？

宮ヶ洞窯では徳利や碗などをはじめ「お勝手もの」といわれる日用雑器を主に生産していたとみられ、その多くは経年のなかで消耗し、失われてしまったと考えられます。また、今井焼の姿形は瀬戸・美濃焼に大変良く似ていて、市場へ流通する場合、これらと混同されてしまうことが大半だそうです。このため、押印文・窯印のない製品のほとんどは正しく今日に伝わらず、今井焼として伝世する品は非常に数が少ないので、貴重です。また、今井焼に関する資料も数が少ないため、その歴史の多くが謎に包まれたままです。



玄人好み

華やかな「はれの器」を連想させる犬山焼と異なり、今井焼の灰釉や鉄釉を施しただけの質素な姿は、どちらかというと渋くてお茶人などの



不思議な窯印

玄人好み。実際、数少ない伝世品のなかには、水指をはじめ、茶碗や茶器、茶壺などの茶道具類を複数みることができます。

今井焼の製品には、時々、この時代のやきものには珍しいと言われる窯印（押印文）の施されているものがあります。全体の生産量からするとごく一部にしか無いこの窯印、現在確認されているだけでも5種類あるのですが、「犬山」の文字を意匠化したものがほとんどです。何故わざわざ窯印をつくったのか、何故「今井」ではなく「犬山」としたのか…。犬山焼同様、やはり犬山城主成瀬氏の鷹場であった今井の地での宮ヶ洞窯操業にも、成瀬氏が関与していたのでしょうか。



窯跡から採集した
窯印入りの拳骨茶碗

尾張三山

今井・ココ特選
おのわ
り
さん
ざん



カテゴリ：自然・景観
住所：犬山市富士山ほか
成立年代：－
map：p.17



個性いっぱい！
尾張三山

三山の筆頭に挙げられる尾張富士は標高275メートルで、遠方から見ると形が富士山に似ているためその名がついたと言われているのですが、本物の「富士山」に敬意を表す意味で、あえて「富士」という漢字をあてたそうです。山頂には大宮浅間神社の奥の院が鎮座しており、毎年8月第一日曜には、犬山市の無形民俗文化財に指定されている「石上げ祭」というお祭りが執り行われます。

最後の一つ本宮山は、尾張三山の中では最も高く、標高293メートルです。西麓にある大縣神社の神体山として信仰され、山頂には神社の本宮社が祀られています。麓には国の天然記念物に指定されているヒトツバタゴの自生地があるなど、貴重な自然が現在も数多く存在しています。

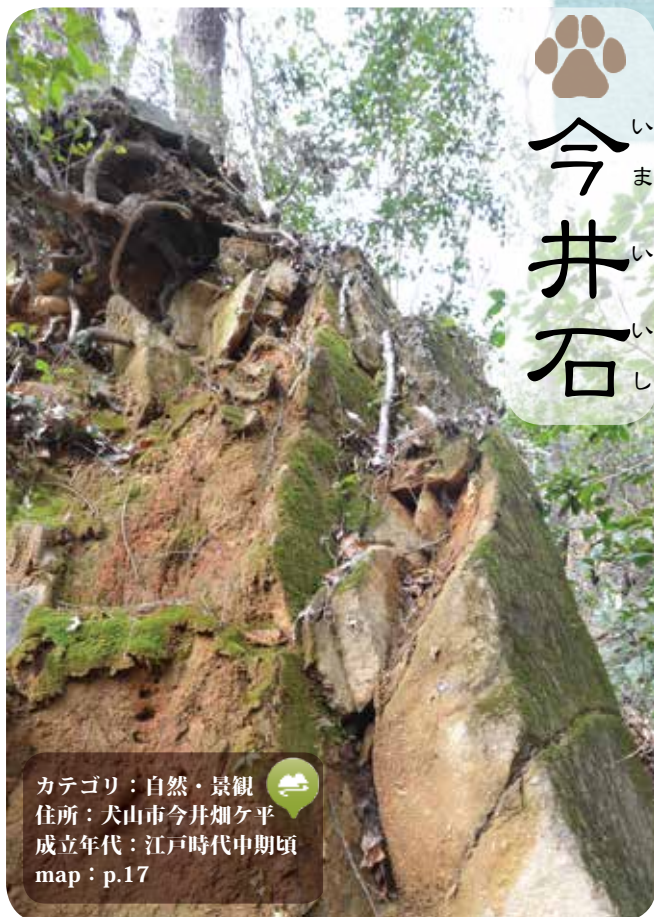


▶ヒトツバタゴ
(ナンジャモンジャ)



石上げ祭の風景

いまいし
今井石



カテゴリ：自然・景観
住所：犬山市今井畑ヶ平
成立年代：江戸時代中期頃
map：p.17



石仏たちが物語る
謎の石材今井石

今井地区では江戸時代中期の18世紀頃から昭和30年代にかけて、「今井石」と呼ばれる灰色で非常に堅い石が、石仏や墓石づくりの石材としてよく使われていました。今井石が切り出されていた石切場は、今井地区と岐阜県可児市の境付近の、現在リトルワールドがある南側の谷付近

に数カ所あったようです。今井の光陽寺では今井石で作られたとされる石仏が多く安置されています。しかし、昭和34（1959）年に当地を襲った伊勢湾台風によって石切場は土砂で埋まってしまいました。現在は露天掘りの跡と思われる窪地が残るのみです。



今井の村の守り神
その昔は歌舞伎の舞台に

犬山市今井宮ヶ洞に所在する石作神社は、今井地区の東側の丘陵の裾部に立地しています。元来は天神社という名称で、若宮の地に創建されたあと、天正15（1587）年に現在の今井の地に移転されました。かつて、この石作神社の境内には幕末

の頃に建てられた廻り舞台があり、秋祭り際には、舞台上で村歌舞伎が演じられていました。しかし、昭和34（1959）年に当地を襲った伊勢湾台風によって舞台は崩壊し、現在はその跡地に建つ石碑のみが当時の名残を留めています。

いしづくりじんじや
石作神社



カテゴリ：遺跡・史跡
住所：犬山市倉曾洞付近
成立年代：天正12(1584)年
map：p.17

ものぐるいとうげ
物狂峠



カテゴリ：建造物
住所：犬山市今井寺ノ前 6
成立年代：慶長 7 (1602) 年
map：p.17

その名も怖い小牧・
長久手の戦い縁の峠道

犬山市南端の楽田地区から小牧市
池之内へと向かう道にある峠です。
小牧・長久手の戦いの際、秀吉陣営
の武将であった池田恒興と森長可

は、家康陣営に長久手の地で大敗し
ます。地名の由来は、戦に負けた兵
達が死に物狂いでこの峠を敗走して
きたことからついたと言われます。



今井地区、信仰を支え
る伝統の古刹

瑞林山光陽寺は、今井地区の西側
山麓に立地する臨済宗妙心寺派の寺
院です。慶長 7 (1602) 年、犬
山東地区にある瑞泉寺から江国和尚
を迎えて開かれました。現本堂は明

和 5 (1768) 年創建とされるも
ので、本堂の中には、第二の山下清
と称される山本良比古が描いた極楽
絵図が展示されています。



カテゴリ：建造物
住所：犬山市今井寺ノ前 6
成立年代：慶長 7 (1602) 年
map：p.17

光陽寺





もも次郎
わんわん
マップ



今井・池野

マップを持って、
文化遺産に出会う旅に出発！



遺跡
史跡



建造物



天然記念物



自然
景観



祭り



おすすめ

0 1.0(km)

(縮尺：1/20000)

(地理院地図電子国土 Web を加工して作成)





引用・参考文献一覧

全巻共通

愛知県犬山市役所秘書企画課、1983、『犬山のむかしばなし』、犬山市役所。
愛知県犬山市役所秘書企画課、1987、『犬山のむかしばなし 第2集』、犬山市役所。
愛知県犬山市役所、2004、『犬山ものがたり』、犬山市役所。
愛知県史編さん委員会、2010、『愛知県史』別編 自然、愛知県。
犬山市エコアップリーダー、2004、『犬山の巨樹・古木 50選』、巨樹巨木調査グループ。
犬山市教育委員会、1993、『犬山市の文化財』、犬山市教育委員会。
犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会、1983、『犬山市史』史料編三 考古 古代・中世、犬山市。
犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会、1985、『犬山市史』別巻文化財・民俗、犬山市。
犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会、1997、『犬山市史 通史編上』、犬山市。
犬山市教委委員会、2002、『全市博物館構想 市民が創る生涯学習のまち』、犬山市教育委員会。
横山住雄、1990、『犬山の歴史散歩』、濃尾歴史文化研究所。

本巻

愛知県教育委員会、1986、『愛知県遺跡分布地図』、愛知県教育委員会。
犬山市教育委員会、1972、『犬山市埋蔵文化財調査報告第2集 十三塚3号墳・熊野第1号墳』、犬山市教育委員会。
入鹿池編纂委員会、1994、『入鹿池史』、入鹿池用水土地改良区。
木曾川学研究協議会、2010、『木曾川とともに歩んだ各務原 犬山 岐南 笠松』、木曾川学研究協議会。
齋藤基生、2002、『1. 入鹿池遺跡群』『愛知県史』資料編1 考古旧石器・縄文、pp38-40、愛知県史編さん委員会編。
佐藤重造・横山住雄、1986、『各務原の歴史散歩』、石亀神社。
東京女子大学文理学部民俗調査団、1995、『今井の民俗—愛知県犬山市今井』、東京女子大学文理学部史学科研究室。
服部哲也・近藤健一、2014、『入鹿池周辺の古墳踏査成果について』『研究紀要 瀬波』創刊号、PP36-40、特定非営利活動法人 古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク。
舟橋昭治、2013、『入鹿池の築造と「入鹿切れ供養地蔵について」』、個人出版。

たびにオススメの資料

尾張富士について

『尾張富士参詣のしおり』尾張富士大宮浅間神社発行
浅間神社にて配布されている案内リーフレット。神社の沿革や石上げ祭について紹介されています。

八曾について

案内マップ... 犬山里山学センターなどで配布されています。
『森への招待状 八曾国有林内 犬山ふれあいの森・湿地』犬山市発行
『犬山・八曾 自然休養林』中部森林管理局発行

本書で紹介されている文化遺産カードについて

「ナンジャモンジャの木」(p.13)... 配布場所：青塚古墳ガイダンス施設
※詳細は下記をご参照ください。

文化遺産を訪れて、カードを集めよう！
文化遺産カード

文中に、herica マークがついているものは、「文化遺産カード」がある文化遺産です。文化遺産を訪れてカードをたくさん集めましょう！

文化遺産カードの楽しみかた

- 文化遺産をたずねて写真を撮ろう。
それぞれの地域に、様々な文化遺産が残っています。
【カード＝観】に載っている文化遺産をたずねてみましょう。
- 写真をもって、配布場所でカードをもらおう。
撮影した写真（デジタル、ターシャの機能でもOK）を持って、
【配布場所＝観】の係りの方（配布場所へ付く「文化遺産カード」を
ください）と交換して下さい。
- 文化遺産カードを通して、地域の文化遺産を
肌で感じる体験をしてみませんか。
ホームページには文化遺産の詳しい説明や写真、アクセスの方法
などが載っています。ぜひチェックしてみてください。
- たくさん集めて、特製バインダーにカードを
コレクションしよう。
たくさん集めた文化遺産を、いつでも手元でチェックできます。
特製バインダーについては「バインダー」をご覧ください。

スマートフォンで文化遺産や史跡めぐり
犬山文化遺ナビ

ar
FREE

リストモード カメラモード マップモード

文化遺産ナビとは、iPhone/Android/Black Berry/Symbian など
スマートフォンで利用できるアプリ「Layar」を使った犬山の文化
遺産ナビシステムです。どこにどんな文化遺産があるのか、また
どんな方法で訪れればいいのか、簡単に調べる事ができます。ア
プリア「Layar」をダウンロードして、「犬山文化遺産ナビ」を検索！

【Layar/レイヤー】

オランダ LAYAR B.V. 社が開発・提供する AR（オーギュメントドリアリティ 拡張現実）
アプリケーションです。スマートフォンに搭載されている GPS、電子コンパス、カメラの機
能を利用して、自分の周りにある位置情報を表示します

※本アプリは無料ですが、アプリのダウンロードやコンテンツ閲覧等には別途通信
料がかかります。ご利用前に料金プランをご確認ください。

Layar 詳細情報：<http://www.layar.jp/>

文化遺産カードの詳細な情報は HP(<http://herica.net>) まで



犬山たび

今井・池野編

🍄 たびの仲間紹介



犬山たび 巻之五 今井・池野編

発行年

平成 27 年 3 月 26 日

発行

犬山市教育委員会

〒 484-8501

愛知県犬山市大字犬山字東畑 36

犬山市役所

企画・編集

特定非営利活動法人

古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク

〒 484-0084

愛知県犬山市大字犬山字南古券 288-7

編集スタッフ

【監修】 赤塚次郎

【編集・レイアウト】 奥野絵美

【Map 作成】 大塚友恵

【写真】 中野耕司

【編集協力】 岩田紗絵・長谷川文雄・西松賢一郎・
麻野純子・平野昌子

悉皆調査調査員

赤塚遼太・麻野慎策・荒井たつよ・在野一生・市澤泰峰・
井上正昭・上田誠人・内田恭司・岡本利雄・加藤有理香・
兼松泰弘・木村直光・久保禎子・瀬瀬 茂・近藤健一・
齋藤 晶・櫻井 敬・高橋幸子・田口 韶・中島和哉・
中野金弘・名和奈美・野田香代・野々村光雄・服部
哲也・葉栗克彦・長谷川富江・坂野俊哉・東野由貴子・
広瀬まり・舟橋正恭・町田義哉・宮下香代子・山崎克江・
山本綾乃・吉田さよ子・渡邊 智

協力

ナカシャクリエイト株式会社
財団法人 岩田洗心館

※本書の内容、テキスト、画像
の無断転載、無断転用を禁止し
ます。

